



広 報 資 料

『流氷』が知床半島に接岸しているのを確認

第一管区海上保安本部 海氷情報センターでは、航空機による海氷観測を1月23日（木）に実施し、オホーツク海を南下中の流氷の一部が、知床半島に接岸していることを確認しました。

知床沖北西方に密接度（*1）1～6の海氷を認め、一部は接岸していました。

接岸していた流氷は、晶氷（*2）及びグリース・アイス（*3）などで新成氷（しんせいひょう）と呼ばれる新しくできた氷でした。

- *1 密接度とは、ある氷域の氷の分布状況がバラバラになっているか、つまっているか、その平均の密集程度10分位法で表したものです。
- *2 晶氷 水中を浮遊する微細な針状或いは板状の氷。
- *3 グリース・アイス 晶氷より後の凍結段階で、晶氷が互いに集まってスープ状の層を作っている。グリース・アイスは光を余り反射しないので、海面は鈍く見える。

1 海氷観測の日時・方法

観測日時：令和7年1月23日（木）午前10時57分～午後0時43分

観測方法：千歳航空基地所属航空機（MA727、愛称：おおわし）による海氷目視観測

2 海氷分布状況



観測結果については別紙のとおりです。

※海氷分布状況は、今後の風や海流の影響により大きく変化することもありますので、船舶で付近を航行する際には、十分に注意して頂くようお願いいたします。

3 データ提供について

海氷観測中の流氷などの画像をオンラインストレージサービスにより提供いたします。

4 Web ページによる情報提供

○海氷情報センターWeb ページ

URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/1center.html>



